

## ◇内 田 清 文 君

○議長（澁谷俊二君） 次に、4番、内田清文君の一般質問を許可いたします。内田清文君、登壇願います。

（4番 内田清文君 登壇）

○4番（内田清文君） 通告に基づき一般質問いたします。質問は、当町における新型コロナウイルス感染症についてです。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症は日本国内で初めて感染者が確認されてから丸1年が経過しました。県内では2月6日以降は感染者が確認されておらず、ワクチン接種も開始され、油断はできませんが、ひとまず今後に期待が持てそうです。

そこで、まずは現時点で町内において新型コロナウイルス関連で町内事業者や農業者、町民の皆様にとどのような影響が出ているのか、その調査結果を伺います。

また、当町ではコロナ対策として地域応援商品券、食事券やプレミアム付宿泊券、感染症対策環境整備支援事業補助金など、幾つかの事業が実施されました。本定例会の招集挨拶で使用換金率等は示されていましたが、これらに対する町民や利用者、事業者などからどのような声や反応があったのか伺います。

コロナ禍ではラベンダー祭りや竹うち、美郷フェスタなど町内行事や活動等は延期や中止となりました。これに伴う関連予算の減額は主にどのようなものがあり、総額で幾らか伺います。同時に、その浮いた経費の使途についても伺います。

令和2年9月議会の一般質問において、感染拡大防止と経済活動のどちらを優先すべきかを伺いました。その答弁では両者のバランスをとることが大切とのことでしたが、今後、当町において両者のバランスをとる場合にどのようなことをしていくべきと考えているか伺います。

先日、首都圏を除く地域で緊急事態宣言が解除されたことからアフターコロナは近いのではないのでしょうか。このような大きな災害を契機に新たな展開を望めば他自治体よりも頭一つ出る状態になるということもあると思いますが、反対にこの前後で当町に変化がないとすれば今後は立ち行かなくなるかもしれません。「新しい生活様式」という言葉が出されたように、ソーシャルディスタンスをとることや3密を避けること、マスクの着用、手洗いと消毒といった感染対策だけでなく、ポストコロナ社会を見据えた変革が迫られているのだと思います。

初日の施政方針では第3次美郷町総合計画を令和3年度中に策定するとのことでしたので、現時点でも既に令和4年度以降はこういう町にしたいというような願望があるものと思われま

今後の当町の行く末を俯瞰したときにどのような想定をしているのか、さらに目玉の施策や当町

の実情に合わせた事業など、他自治体には置換不可能な町独自の考えがあればお聞かせください。

以上、主に5点について町長の見解を伺います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの御質問にお答えいたします。

初めに、御質問の1点目、新型コロナウイルスによる町内事業者への影響についてですが、県が実施している最新の令和2年12月分における全県の経済動向調査結果では、個人消費に持ち直しの動きが見られるものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、サービス業はやや弱含みの動きとなり、製造業は全体としてやや強含みの動きとなっています。

町については、電話調査で町内の製造業、建設業、運送業、小売業、サービス業、飲食業、金融業、計37事業者に現在の景況感を確認しましたが、令和元年度と比較して売上額が減少したのは6業種で25事業者となっており、その理由として新型コロナウイルス感染症の影響との回答でした。

サービス業において売上額が大きく減少し、また飲食業及び小売業については、酒食を提供する飲食店や酒類小売店の減少幅が大きく、製造業では事業者個々の事情により、かなりの差異が見られました。建設業は過半の事業者が令和元年度並みを確保しているとのことでした。全体として幅広い業種で影響を受けているものの影響が少ない業種も見られるなど、業種によって景況感が異なる結果となっております。

また、農業者への影響ですが、水稻は国内需要の減退が続く中で新型コロナウイルス感染症による外食需要減少が加わり、在庫増加に伴う米価下落が今後心配されるところです。また、園芸作物等については、美郷振興作物15品目の年間出荷販売額では5億円ほどで前年並みとなっているほか、町の指定管理施設の「あったか山直売所」においては、現時点で前年並みの売上げとなっており、大きな影響はないところです。

こうした結果が、すなわち町民への影響であると認識しております。

次に、地域応援商品券・食事券についての町民の声ですが、「町民全員が使用できてよかった」「商品券と食事券の2種類が使用できるため町内の飲食店を利用する機会となった」などの言葉を多く頂いております。一方、「施設に入所している人は食事券を使用するのが難しい」という声も伺っております。また、事業者からは「たくさんの町民から使用してもらい、売上げの回復につながり助かった」「小売業や飲食業での使用が多く、サービス業など他業種での使用は少なかった」という声も伺っております。

美郷町プレミアム付宿泊券については、事業期間である令和2年10月から令和3年2月の5か月の宿泊者数は全体で5,990人、昨年同期比で1,649人の増、割合にして約38%の増となっており、事業の効果は十分あったと認識しております。

宿泊券を使用したお客様からの声として「GO TOキャンペーンや県の補助事業等も相まって非常によい企画だった」「初めて町内の宿泊施設を利用するいい機会になった」「コロナ対策がしっかりされていてよかった」、料理や接客に関する声などが多い一方、「電話が混んでいてつながらない」「予約したいが、混んでいるため望む施設が予約できない」という声や施設の老朽化や設備内容に関する不満などもあったと宿泊事業者から伺っております。また、宿泊事業者の声としては、「想像以上にお客様がたくさんいらしゃったので対応が大変だったが、売上げが確保でき非常によかった」「お客様に十分なコロナ対策をもって対応できてよかった」という声を伺っております。

感染症対策環境整備支援事業補助金については、換気設備設置等感染症予防事業で16件・132万円、オンライン環境整備事業で16件・402万4,000円の補助金を交付しております。事業者の声としては、「非接触体温計の設置によりコロナ対策ができた」「パソコンの導入によりオンライン会議の利用や在宅勤務が可能となり、コロナ対策に効果があった」という声を伺っております。

次に、新型コロナウイルス感染症の影響で中止し、減額した主な事業の予算総額は約6,700万円で歳出減額に合わせて歳入予算も約1,300万円減額しており、差引き約5,400万円となります。

減額した主な事業予算額は、東京2020オリンピック聖火リレーやホストタウン推進関連が約2,200万円、プールパークみさとの運営が約640万円、学友館特別展が約500万円、地域間交流関連が約460万円、ラベンダーまつりが約320万円、ホストタウン中学校交流が約300万円、美郷フェスタが約180万円、六郷のカマクラ関連が約150万円、七滝「水の森」植樹が約30万円などです。

これら事業予算については、令和2年度補正予算案として、これまで議会で既に審議・議決を頂いており、補助金や交付金、町債などの特定財源以外の一般財源として一般会計における財源に充当されておりますことは、既に議員が御存じのところではあります。

次の御質問です。令和2年9月議会定例会の一般質問でも答弁しておりますが、コロナ禍にあって私たちが最終的に求める生活の姿は持続的で安定感ある生活であると存じます。その実現のためには、適切に感染拡大防止を図りながら可能な範囲と内容で経済活動を展開するという、両者のバランスをとることであると私は考えております。

今後の取組としては、感染拡大防止策として日常の感染予防対策を引き続き徹底するとともに、科学的な知見や国の方針に基づく対応、例えば集会施設等における二酸化炭素濃度計の配置など、

状況に応じた適切な対応に努めながら喫緊の課題であるワクチン接種を円滑に実施していくことに尽きるものと存じます。

また、経済活動については、国の令和2年度第3次補正予算で配分される新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を活用しながら事業者の円滑な事業展開に向けた感染予防対策の支援や町民の生活支援にもつながる需要拡大の支援などに努め、現在よりも経済活動が向上するように取り組み、両者のバランス感ある展開に努めてまいりたいと存じます。

最後の御質問です。基本的に人の生活を維持する社会システムは、これまでも、これからも大宗の枠組みを維持しつつ、一部が環境に応じて変化し、適切なシステムに構築されてきており、その積み重ねで持続的で安定的な生活の具現化につながっていくものと私は思います。そのため、今般の新型コロナウイルスに関連する社会変化についても、過剰でも不足でもなく、適切な内容に適切な対応で臨むことが肝要であると私は認識しております。

そうした考えのもとでの第3次美郷町総合計画の策定についてですが、新型コロナウイルスに伴う変化を適切に見通しながら対応し、町民が美郷町に住み続けたい思いを継続するとともに町民が誇りを持って美郷町を語れる町にしたいという願望のもと、各般の取組を総合計画策定の常道であるボトムアップの手法でまとめてまいりたいと考えております。

具体的には、現計画の達成状況等を庁内検証するとともに、「美郷のまちづくり町民アンケート調査」を実施して現計画に対する町民の満足度や価値観を把握するほか、新型コロナウイルスに伴う行動変化や価値観変化を見通しながら施策の企画立案及び取組の濃淡を考えてまいりたいと存じます。さらに、外部委員による審議会を設置して審議をお願いするとともに計画案に対するパブリックコメントを実施し、町民から広い意見を頂きながら計画を策定していきたいと考えております。

また、その核心には人口減少を踏まえた上で関係人口・交流人口の増加、町民所得向上に係る産業振興、そして「町づくりは人づくり」の観点で感性や感受性、行動力を刺激する取組の充実などを据えてまいりたいと考えているところです。

なお、町はこれまで他自治体に先んじて企業との連携に伴う各般の取組、芸術文化に関する各般の取組、公共施設再編や最適化に関する取組など、「美郷ならではの」取組を展開するとともに美郷にしかできない美郷雪華に関する取組などを展開してきておりますが、こうしたことは美郷町の特色として大切にし、今後も各般にわたり推進してまいりたいと考えているところです。

以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで、4番、内田清文君の一般質問を終わります。